

個別事業(取組)評価				
事業No.	55	施策の柱への位置付け	柱⑫ 文化財の保存と活用	
事業名称	高知城整備事業(石垣及び排水路)		担当課	文化財課
			当初予算額(千円)	56,743
			補正後予算額(千円)	41,743
			決算額(千円)	36,110

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	<b>【現状】</b> ① 石垣 ・追手門東北矢狭間堀石垣は、老朽化などによって石垣を構成する石が割れたり孕みだして崩壊の危険性がある。また、同石垣は、追手門をくぐったところにあり、多くの県民・観光客が毎日行き交う場所であり、安全確保の面からも問題がある。 ② 排水路 ・高知城の排水路は、廃城までは、本丸から四周を囲む堀に流れ込む構造であった。しかし、明治以降、排水路は改変され、堀も3分の2が埋め立てられた。そのため、豪雨時には、排水路の能力を超え、城外に大量の土石を排出している。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 石垣 ・平成22年度に実施したレーザー測量により石垣の変形、割れなど劣化状況を詳細に把握した。この測量成果に基づき作成した図面を資料として専門家との協議により、解体範囲を特定した。 ◆ 排水路 ・平成22年度に実施した測量設計により、土石排出の原因である排水路の老朽化、機能低下や坂路の状況について詳細に把握した。
		<b>【要因】</b> ◆ 石垣 ①老朽化(石の劣化)、②裏栗石(透水層)の目詰まり、③樹木による圧迫 上記により、石が動き支点が動くことにより割れやすい場所に荷重がかかるなど、石垣構築時の性能が低下している。 ◆ 排水路 ①堀の埋め立て、②排水路の改変、③道の付け替え	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 石垣 ・上記の測量に加えて、石垣を構成する積み石の控え長を実測し、変形要因の把握に努めた。 ◆ 排水路 ・現地踏査により老朽化や破損している箇所の特定をおこなうとともに縦断勾配の測量により、雨水の流下状況を把握した。
②	目標(Outcome)	◆ 石垣 ・石垣関係資料に基づく伝統的な構築技法により積み直し、石垣本来の安定性を確保する。 ◆ 排水路 ・排水路を整備し、城外に土石が流出することを抑制する。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 石垣: 専門家の助言により解体範囲及び修理方法を検討 ◆ 排水路: 適切な降雨強度を持った排水路の整備による土石の流出防止 <b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 石垣 ・保全工事の施工(7/20~9/2) ・石垣部会による検討(6/14、9/16) ・史跡高知城跡整備計画推進委員会での確認(3/5) ◆ 排水路 ・緊急性を要する地区から施工することにより、設計どおりの改善が諮られるか確認する→施工中に問題は生じなかった。
		<b>【検証(比較)方法】</b> ◆ 石垣 ・文化財である石垣の修理を適切に実施することにより保全が図られる ◆ 排水路 ① 豪雨時(計画流量が流れた時)に排水路から水があふれないこと ② 路面からの土石の流出が最小限に抑えられること	
③	実施内容(Input・Output)	◆ 石垣 ・測量により作成した追手門東北矢狭間堀石垣の実測図を基礎資料として石垣部会の専門家の助言を得て石垣解体範囲を決定する。 ・専門業者による設計・施工監理の元に石垣改修工事及び矢狭間堀解体修理を実施する。(平成24年度から平成26年度予定) ◆ 排水路 ・排水路等の整備(排水路改修L=157m、横断側溝N=12ヶ所、集水柵N=12ヶ所、舗装工 A=1,071㎡)	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 石垣 ・解体範囲の決定(3/5) ・追手門石垣保全工事(7/20~9/2) 施工概要 大型土のう L=14m(82袋) 仮囲い L=26m ◆ 排水路 ・排水路改修工事(8/25~1/21) 施工概要 排水路等の整備(排水路改修L=157m、横断側溝N=12ヶ所、集水柵N=12ヶ所、舗装工 A=1,041㎡)
		目標達成度 <b>B</b> 「No」を選択した項目 <input type="checkbox"/>	
総合評価と今後の方向		<b>【総合評価】</b> ◆ 石垣については、解体範囲の決定及び土のう設置により保全を図ることができた。 ◆ 排水路は、計画通り施工することができた。	<b>【今後の方向】</b> ◆ 石垣については、平成24年度から、平成26年度にかけて施工を予定している矢狭間堀及び同石垣改修工事について、文化庁や専門家の指導を頂き一日も早い原形復旧に努める。 ◆ 城内の施設についても、課題のある箇所については順次整備を進めていく。